

会社概要

(2021年9月30日現在)

会社の概要

社名	株式会社 ヤギ
英文社名	YAGI & CO.,LTD.
創業	1893年(明治26年)10月16日
設立	1918年(大正7年)4月28日
資本金	1,088,000,000円
主な事業内容	綿化繊維、合繊糸、綿化繊維物、合繊織物、ニット生地及び衣料品等の各種繊維二次製品の国内販売ならびに輸出入
主要な事業所	(国内) 大阪本社 大阪市中央区久太郎町二丁目2番8号 東京本社 東京都中央区日本橋小網町18番15号 支店 福井(福井市) 出張所 名古屋(名古屋市) 営業所 和歌山(和歌山市) (海外) 駐在員事務所 上海(中国) ホーチミン(ベトナム) ハノイ(ベトナム) ダッカ(バングラデシュ)

役員一覧 (2021年9月30日現在)

代表取締役 社長執行役員	八木隆夫
取締役 常務執行役員	山岡一朗
取締役 上席執行役員	杉岡弘康
取締役 上席執行役員	濱田哲也
取締役 上席執行役員	八木靖之
取締役(常勤監査等委員)	三浦明石
取締役(監査等委員)	池田佳史
取締役(監査等委員)	塩田修
取締役(監査等委員)	熊谷弘

(注) 取締役池田佳史、塩田修及び熊谷弘は、社外取締役であります。

(注) 本報告書中の記載金額及び株式数は表示単位未満の端数を切り捨てております。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日までの1年
定時株主総会の基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	期末配当 3月31日 中間配当を行うときは9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031(フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。
公告の方法	電子公告とし、当社ウェブサイトに掲載いたします。なお、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。 ウェブサイト https://www.yaginet.co.jp/ir/announce.html

株式の情報

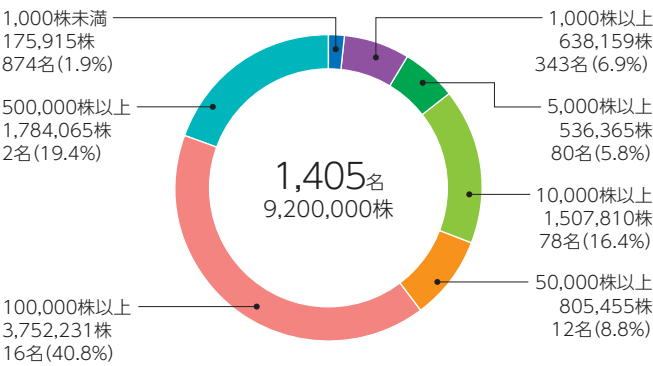
(2021年9月30日現在)

発行可能株式総数	45,568,000株
発行済株式の総数	9,200,000株
株主数	1,405名
大株主(上位10名)	

株主名	持株数	持株比率
ヤギ共栄会	910(千株)	10.93(%)
ビービーエイチ フィデリティ ビューリタン フィデリティ シリーズ イントリンシック オポチュニティズ ファンド	450	5.40
株式会社みずほ銀行	410	4.93
株式会社三井住友銀行	380	4.56
立花証券株式会社	348	4.18
株式会社三菱UFJ銀行	305	3.66
ヤギ従業員持株会	286	3.44
第一生命保険株式会社	250	3.00
ノムラ ビービー ノミニーズ ティーケーワン リミテッド	236	2.84
クロスプラス株式会社	229	2.75

(注) 持株比率は自己株式(873,865株)を控除して計算しております。

所有株数別分布状況



【住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について】

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

【未払配当金の支払いについて】

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。



株式会社 ヤギ

〒540-8660 大阪市中央区久太郎町二丁目2番8号
<https://www.yaginet.co.jp>



第110期

中間報告書

2021年4月1日→
2021年9月30日



証券コード：7460

株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、7月に4度目の緊急事態宣言が発出され、変異株の感染も急速に拡大するなど、依然として新型コロナウイルス感染症拡大による影響で、国内経済正常化の見通しが立っておりません。また、東京2020オリンピックが開催されるも十分な消費向上にはつながらず、慢性的な消費マインドの低迷もあり先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の下、当社グループは3か年の新中期経営計画「MAKE A DREAM, I + ∞」に基づき、「経営体制の高度化」、「事業ポートフォリオの最適化」、「次世代事業の創出」、「サステナビリティの着実な実行」の4つの重点方針を掲げ、経営組織体制の強化、優良取引先との取り組み強化、ブランドビジネスの強化、当社グループとしてのエシカル活動であるYAGIthical(ヤギシカル)の推進といった重要施策の取り組みを進めております。

しかしながら、新型コロナウイルスの影響が長期化したことによる市況の停滞感を払拭することはできず、当第2四半期連結累計期間の経営成績につきましては、増収減益となりました。

今後におきましても、当社が1893年(明治26年)の創業以来築き上げてきた、信用と実績をさらに高めていくために、複雑な環境下でも適正な利潤を上げられるビジネスモデルを構築してまいります。

株主の皆様におかれましては、なにとぞ一層のご理解、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2021年11月

代表取締役
社長執行役員 八木隆夫

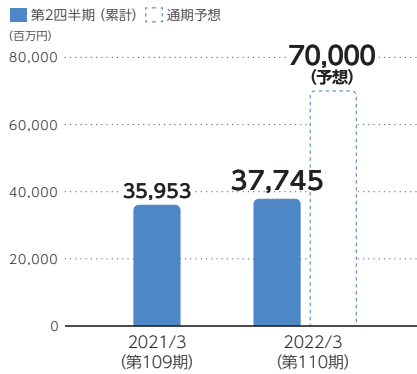
配当について

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営上の重要課題のひとつとして認識しており、安定した配当の継続と、経営基盤の強化に必要な内部留保をバランスよく実施していくことを基

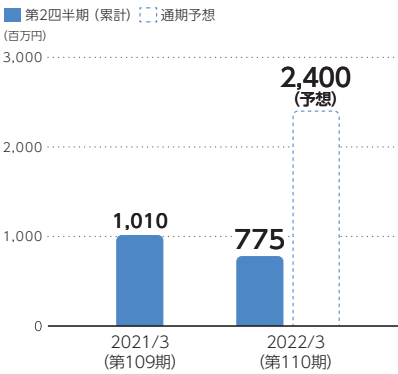
本的な考えとしております。
当基本方針に基づき、当期末配当金は1株につき48円を予定しております。

第2四半期財務ハイライト(連結)

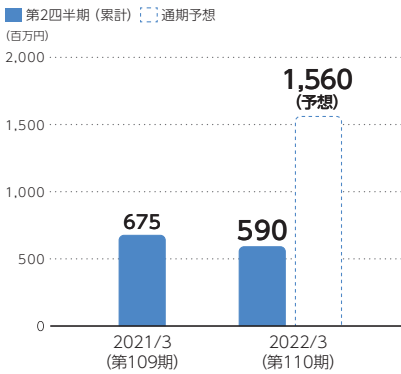
売上高



経常利益



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



※[収益認識に関する会計基準]等を適用しており、決算短信では対前年同期増減率は記載しておりませんが、当資料では比較可能なように、前年同期の数値を同様の基準に置き換えております。

セグメント別の概況

※「収益認識に関する会計基準」等を適用しており、決算短信では対前年同期増減率は記載しておりませんが、当資料では比較可能なように、前年同期の数値を同様の基準に置き換えております。

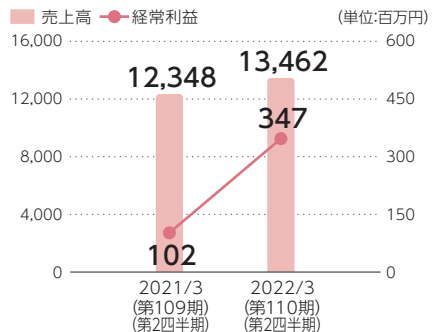


合成繊維販売は、自社加工系を中心にユーザーとの取り組みが深耕し堅調に推移しました。また、インテリア向け原料、高付加価値原料販売も比較的安定した動きとなりました。

一方で、天然繊維販売については、綿糸相場が高騰しており、オーガニック糸の取り扱いが増加したものの、定番糸を中心にその他の糸の取り扱いが大幅に減少しました。

また、テキスタイル販売では、コロナ禍における巣ごもり需要に支えられ、着心地重視のカットソー素材等が復調傾向となりました。

この結果、売上高は13,462百万円(前年同期は12,348百万円)、セグメント利益(経常利益)は347百万円(前年同期は102百万円)となりました。



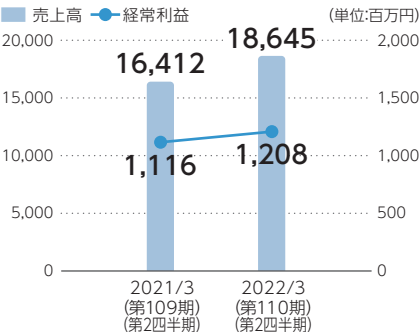
(※売上高構成比はこの他に、不動産事業0.9%があります。)



度重なる緊急事態宣言の影響で、一部店舗の閉鎖を余儀なくされる小売店舗もありましたが、ワーク系商材、量販向け商材は比較的堅調に推移しました。また、カタログ通販やテレビ通販向けで、巣ごもり需要に呼応したホームウェアや雑貨、キャラクター商材も健闘しました。

しかし、生産背景としては、原料価格の上昇、円安基調、中国の電力不足に伴う計画停電による生産効率の低下や、原油高に伴う物流経費の上昇が、より一層コスト高につながり収益を圧迫しており、今後も苦戦が予想される状況であります。

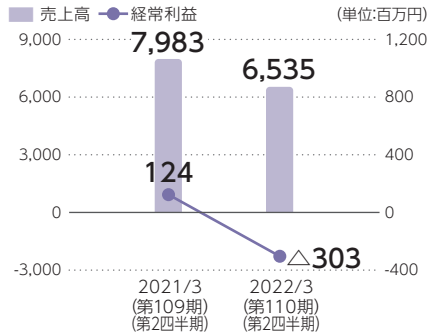
この結果、売上高は18,645百万円(前年同期は16,412百万円)、セグメント利益(経常利益)は1,208百万円(前年同期は1,116百万円)となりました。



百貨店やセレクトショップを中心にブランド品を扱う事業は、依然として長引く新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、非常に苦戦を強いられました。

また、生活資材や家庭用抗菌抗ウイルス商材を扱うライフスタイル事業では比較的安定した動きを見せましたが、特にコロナ関連商材については、需要に対し供給が追いついてきており、その需要についても急速に低下しつつあります。このような状況のもと、ナノファイバーを使用した不織布の高性能マスク販売は比較的、堅調に推移することができました。

この結果、売上高は6,535百万円(前年同期は7,983百万円)、セグメント損失(経常損失)は303百万円(前年同期は124百万円のセグメント利益)となりました。



TOPICS

PBPコットンプロジェクトが拡大中

サステナビリティに対する意識の高まりや、オーガニック Cotton の需要の増加に伴い、当社も参画している一般財団法人PBP Cottonへの、支援付きオーガニック Cotton が支持されています。本年9月16日から18日に開催され、約1万人の来場者数を記録した「オーガニックライフスタイルEXPO 2021」では、YAGIthicalとPBP財団で共同出展し、PBP Cotton使用製品を中心に展示・販売を行いました。また、当社とPBP財団と大手アパレル企業が連携して、PBPオーガニック Cottonを使用したTシャツの売上の一部を活用し、インドのオーガニック Cotton 栽培農家の子供達への高等教育就学支援を行うプロジェクトを開始しています。



NPO法人DEAR MEとツバメタオル社の工場見学ツアーを開催

本年6月、NPO法人DEAR MEと共に、当社グループ企業のツバメタオル株式会社の工場見学ツアーを開催しました。本工場見学を通して、ツバメタオルが独自に取り組んでいる環境負荷の少ないタオルの製造工程や、サステナブルなモノづくりに対する姿勢を学生の方々に知っていただく機会となりました。日用品であるタオル製品の中にも、環境負荷の少ない選択肢があることを示すきっかけにもなりました。



エコバッグの新たなプラットフォーム「Loopach(ループック)」がスタート

当社と株式会社MILKBOTTLE SHAKERSが協業し、エコバッグの新たなプラットフォーム「Loopach(ループック)」をスタートしました。エコバッグの大量生産による短サイクル消費や廃棄問題の解決方法として、一つのエコバッグを長く愛着を持って使えるシステムを提案しています。当社の合繊チームが開発した環境配慮素材のオリジナルバッグとLoopachスマホアプリを連動させ、買い物時に貯まるポイントの使用で、非営利団体等への寄付が可能となる仕組みです。当社は、Loopachオリジナルエコバッグの生産以外にも販売の部分で参画しており、現時点では全国約60店舗でLoopachの導入がスタートしています。



Loopach ウェブサイト <https://loopach.com/>

YAGI × PBPウェブサイト <https://www.yagithicalpbp.jp/#about>

当社も参画した産学プロジェクトが始動

当社と、株式会社アーバンリサーチ (UR)、東京ファッションテクノロジーラボ、大阪文化服装学院による、産学産学プロジェクトがスタートしました。学生の方々が講義の一つとして3DCGを活用し、2022年春夏シーズンに向けて商品企画の提案を進め、UR社のサステナビリティ配慮業態「THE GOODLAND MARKET」での商品展開を予定しています。本プロジェクトを通して、アパレル業界へのDX人材輩出を加速し、産業構造の変革に取り組んでいきます。



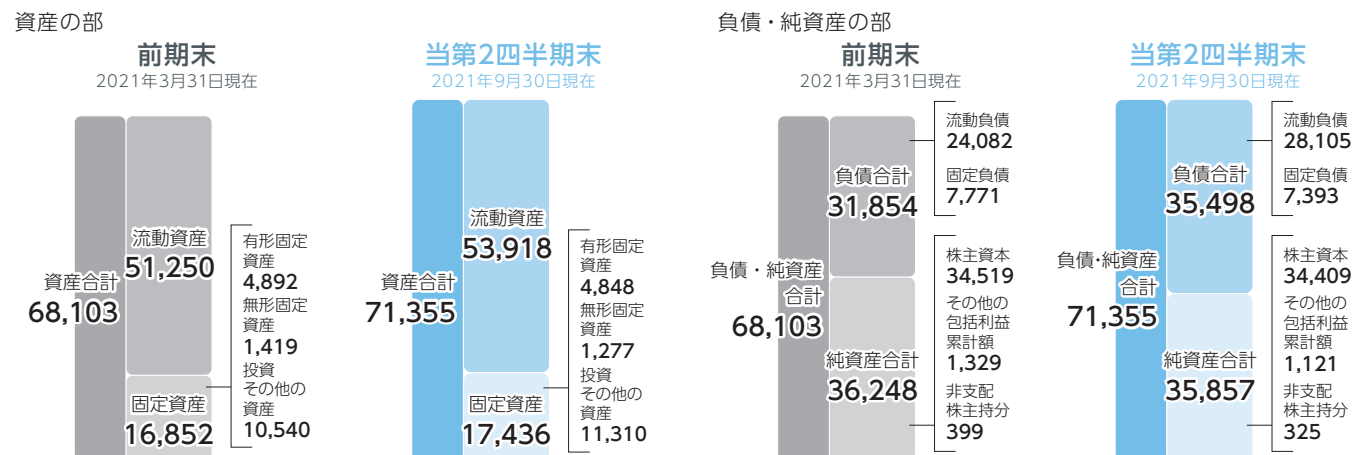
すみだ北斎美術館「しりあがりサン北斎サンークスツと笑えるSHOW TIME!」展に協賛し、展示作品制作に協力

本年4月20日から7月10日まで、すみだ北斎美術館にて開催されていた「しりあがりサン北斎サンークスツと笑える SHOW TIME!」展に協賛し、葛飾北斎の作品をしりあがり寿さんのセンスで現代のアパレルにアレンジした展示物の制作に協力しました。当社ならではの技術によって日本の伝統芸術を蘇らせたという思いから、協賛したものです。また、3DCGを使った展示も行い、ファッション産業で既に活用されはじめた新技術が、芸術・文化の分野でも活用できることを表現しました。



連結財務データ

● 四半期連結貸借対照表 (単位:百万円)



● 四半期連結損益計算書 (単位:百万円)

※「収益認識に関する会計基準」等を適用しており、決算短信では対前年同期増減率は記載しておりませんが、当資料では比較可能なように、前年同期の数値を同様の基準に置き換えております。

